

よみさんぽ

大宮見沼

第 8 号



写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集 ふるさと発見！
天王様のお祭りが復活 見沼区染谷

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会

特集

ふるさと発見！

天王様のお祭りが復活

見沼区染谷



見沼区染谷の八雲神社には、古くから地域住民に親しまれた祭りがあった。時代とともに祭りの担い手は減り、いつしか山車や神輿は社に眠った。その永い眠りの時がすぎ、山車や神輿が60年の時を経て動き出す。そこには地元の祭りを次代につなげようと奔走する、地域の人たちの姿があった。

片柳小学校創立140周年を祝って

11月30日、さいたま市見沼区にある片柳小学校140周年記念式典の日、校庭には大きな山車にびかびかのお神輿が現れました。鉢巻はっぴに法被はっぴ姿は片柳中学校の生徒たち。拍子木ひょうしぎの合図でお囃子はやしが始まり、ゴロゴロと鈍い音をたててゆっくり



と山車が動き出します。天狗やおかめ、ひょっここ、獅子舞、^{まんどう}万灯、お神輿、山車と続きます。中学生たちは、夏頃からお囃子の練習を積み重ねてきました。「わっしょい！わっしょい！」「わっしょい！わっしょい！」、お囃子に負けんばかりのかけ声は片柳小学校の子どもたちです。山車の後ろからサポートするのは自警団の人たち。「もう少しゆっくりね」、時に行列に加わったりと駆け回る地元の人たちの姿も。「さあ、もっと元気を出して」、中学生にはっぱをかけながら笑顔がこぼれています。行列は、ゆっくりと校庭を一周しました。

地元のお祭りを子どもたちの記憶に残したい

さる10月、「今、天王様にあったお神輿や山車を修復しているんです。今度、お披露目するから見に来ませんか」と、黒白洋蘭園の黒白秀之さんから、初めて「天王様」のお話を伺いました。「天王様」と呼ばれる染谷の八雲神社にお神輿や山車が眠っていて、黒白さんを始め地元有志の人たちが修復作業に取り組んでいるとのことでした。「今日も午前中に運び出ししてね、埃だらけになっちゃって」と黒白さん。仕事の合間を縫って奔走されています。

「私が5歳ぐらいの時に、家に獅子舞が周ってきた覚えがあるんです。でも、お神輿は私も知らなかった。そうした地元のお祭りを子どもたちに見せてあげたいんですよね」。染谷に限らず、地域の子どもたちに広げていくためにも、片柳中学校の校長先生や公民館館長さんたちにも協力を呼びかけたそうです。

「子どもの頃にこんな祭りやっていたなあ、って記憶に残るでしょう。でも、祭りのことを知っている人たちがだんだんいなくなってきちゃって、なんとか復活できないかなと思っているんです」



と語ってくださいました。

「神様も喜んでいるだろうよ」

お披露目の前に、神霊を輿に移す（だからお神輿なのですね）儀式がありました。お社から移す際に災いが起きぬよう神主さんがご祈祷をし、儀式の後は氏子さんたちがお酒やお菓子を振る舞ってくださいました。お社の前にならんだお神輿やお面、万灯を前に、思い出話にも自然と花が咲きます。

「昔はお祭りも賑やかでね、遠くのほうから見に来る人もいたんだよ」

「昭和 40 年頃に、ここにも竜巻が来たんだよ。神社の大きな木が倒れたりしたんだけど、神社のおかげで周りの家は壊れなかったんだよ」

文献¹⁾によると 1971（昭和 46）年 7 月 7 日朝、染谷地区は大竜巻の襲来を受けました。竜巻は八雲神社の境内で方向を変えたため、民家への被害は最少に抑えられ、後に村人は、神社が村を守ってくれたと語り合ったそうです。

ぴかぴかのお神輿を眺めて、「よかったなあ。外に出してもらって神様も喜んでいるだろうよ。ありがたい」という氏子さんの姿に、この地域でも神様は生活の身近なところにいたんだなあと感じました。

染谷の振り万灯

八雲神社の境内には「染谷の振り万灯」を紹介する看板があります。それによると、7 月 14 日に八雲神社で行われる万灯祭りは天王様の祭礼で、5 本の万灯を若い衆が振りながら村内を練り歩く勇ましいお祭りでした。前日から村中の人が出で山車を組み立て、万灯の飾りつけをしていました。1 本の万灯は約 30 キロあり、3 人交代で振ったそうです。1939（昭和 14）年頃まで振り万灯が行われていたそうですが、若者の減少とともにできなくなり、戦後 2 回復活しましたが、以来、祭礼当日は 2 本の万灯を社前に祭っているとのこと。

ふるさと発見！

お祓いしたお神輿は「ふるさと発見！子どもまつり」、続いて片柳小学校 140 周年記念式典で、初めて中学生たちによって担がれるのです。「ふるさと発見！子どもまつり」は、世代間の交流を図ろうと、青少年育成片柳地区会が主催し、今年で 14 回目を迎えました。地域の老人会等の団体が協力、中学生

もお手伝いし、お手玉やベーゴマ、割りばし鉄砲など昔遊びが体験でき、ポン菓子やもちつき、わたあめ、豚汁なども振る舞われます。実は、去年の子どもまつりのとき、お神輿修復の話があり、来年はぜひ子どもたちに担がせたい、と準備を進めてきたそうです。

当の中学生たちは、初めての衣装や練り歩きに少し照れくさそうでしたが、お面姿や獅子舞の振る舞い、お囃子もだんだん板についていき、2回目の片柳小学校の練り歩きは、ぐんとレベルアップしていました。

「すごいねえ、子どもたちは」と目を細ませる黒白さん。片づけに汗しながら「ほら、貴重なものが出てきたよ」と見せてくださったのが、1958（昭和33）年付けの新聞。実に半世紀以上、お面と一緒に眠っていました。

片柳をつなぎたくて

黒白さんが青少年育成片柳地区会副会長として関わっていた時、子どもたちのためにと学校長や自治会、民生委員や老人会などが汗を流しているけれど親たちは少なく、ほんとうに子どもたちのことを語れているだろうか、と感じたそうです。また、「ふるさと発見！子どもまつり」で、事前に案内していても「ポン菓子」の音に苦情が出たりし、「こんなに地域はよそよそしくなっちゃったのかなあ」という思いを抱いたそうです。そうした折、「ふるさと発見！子どもまつり」でもちつきをしたら、大人たちが昔を懐かしみ、「そういえば獅子舞があるけど出そうか」「お面もあるよ」と話が出て、地元の幼馴染みの人たちと動き出したのだそうです。

「氏子さん、学校、地域の人たちがみんな『子どもたちにいいこと』という思いでつながっている。そんなふうに片柳をつなぎたくて、大人たちはあなただちを見ているんだよ、というメッセージは、いつかつまずいた時にもきっといい方向にもたらしてくれる気がする」

今年7月、いよいよ振り万灯、お神輿、山車が地元を練り歩きます。およそ60年ぶりといわれる天王様のお祭りが復活します。（記 永瀬恵美子）

参考文献

- 1) 大宮をあるく I ～東部編～；大宮市教育委員会編：1988
- 2) -郷土をつづる-片柳のむかし；『片柳のむかし』刊行委員会、大宮市片柳公民館編：1988

やどかりの里の仲間たち・7

自由に過ごすことが幸せ

千葉 英世さん (58歳)

やどかりの里のグループホームに入居して18年になります。私は自由人なので、朝起きて「今日はどこ行こうかなあ」と考えてから、天気が良いと思ったら大宮公園に行って過ごします。自転車で出かけることが楽しいし、何より毎日自由に過ごせることが幸せです。

南中野商店会の清掃も6～7年続いています。最初は職員だけでした。しかし、メンバーも清掃に参加して、商店会の人たちに精神障害のある人のことを知ってほしいと思って始めました。今では馴染みの商店もたくさんあり、道で会うと声をかけてくれ、いろいろなお喋りをします。お店に行った時には世間話などしながら、時におまけしてくれることもあり、楽しい時間です。

今は足腰が痛く、働きたくても働けません。でも、これからも自由に生きていきたいと思っています。

仲間がいるから頑張れる

岡村 緑さん (40歳)

私が大宮東部活動支援センターを利用するようになって3年が経ちました。活動支援センターは、人間不信に陥る症状がある私にとって、症状を回避できる場所です。病気があっても仲間が話しかけてくれます。

病気になって、「普通に戻りたい。仕事がしたい」と大泣きすることがありました。今は家に帰って、夜寝て、また起きる。そんな普通の暮らしを心がけています。とても症状が辛い時は、自分で自分を励ましています。昔いじめられていたから、人には優しくしています。友情とか愛情とか、目に見えないものが大事だと思うようになりました。

努力していれば誰かが見ていてくれるのがやどかりの里です。やどかりの里のみんなのことを仲間と思えるから頑張れます。これからも、再発しないように気を配ってやっていきたいと思っています。



郷土かるたを通して 育む郷土愛、広がる子どもたちの輪

埼玉に郷土かるたがあるのをご存知ですか？その名を「彩の国 21 世紀郷土かるた」。私は、自分の子どもが子ども会活動を始めるまで、その存在を知りませんでした。埼玉県教育委員会が、今を遡ること 32 年前、1982（昭和 57）年に埼玉の風土と文化を理解し、郷土を愛する子どもたちを育成するために制作、2002（平成 14）年に改訂されました。このかるたは、当時の子どもたちのつくった句や絵が使われており、手づくり感が溢れた味わいあるかるたです。

さいたま市に関係する詠句にはどんなものがあるでしょうか？

「通船堀 江戸まで結ぶ 川の道」「見沼の田 歴史を映し 空かつぐ」

「ホイッスル ひびけ心の スタジアム」「シンボルは さいたまアリーナ 新都心」……このかるたで埼玉の名所、人を知る人も多いのでは？

毎年 3 月には、埼玉県教育委員会と埼玉県子ども会育成連絡協議会との共催で「彩の国 21 世紀郷土かるた」県大会が開かれ、子ども会単位で参加します。それに向けて、各地域で予選会が行われ、勝ち抜いた子どもたちが出場します。高学年と低学年の部があり、それぞれ団体戦と個人戦で競い合います。

最近では、子ども会の活動も「子どもが集まらない」というところも少なくありません。働くお母さんたちも増え、親の負担を避けるため、子ども会活動に参加しない世帯もあると聞きます。子どもが集まらず、かるた大会に参加できない子ども会があるのを聞くと、かるたの練習を通して、異年齢の子どもとのつながりを深められる機会なのに……と残念な思いがします。

今年の県大会は、3 月 9 日（日）本庄総合公園体育館、2 月 22 日（土）には大宮武道館でさいたま市予選会も開かれます。子どもたちの真剣な姿、そして、埼玉の郷土かるたを観に行ってみてはいかがでしょうか？ （記 宗野 文）

あの街
この街

俊一郎が行く・2

漆黒に写し出される時間

地図からの妄想

こんにちは！私は地図を見ることが好きです。道路の終わるところや入り組んだ海岸線を通る道から、その土地ごとの風景や生活を想像することが密かな楽しみでした。そして、ふとその地形に惹かれて行ってみたいと思うことがあります。能登半島はそんな地図好きをワクワクとさせる地形です。願いが叶って学生の時、建築物見学の旅の途中に初めて石川県輪島市まで行くことになりました。有名な朝市見学を兼ねて輪島の街を徘徊しますが、我にかえると特に有名な建築物があるわけではない。仕方が無く見かけた輪島塗のお店に入りますが、バブルの残光が残る当時、どの品を見ても豪華さと値段の高さを競い合っているように感じ、懐の寂しい学生は、ただただ呆然として輪島を後にするしかありませんでした。しかし、なにかモヤモヤとした気持ちは残ったのです。

20年ぶりに輪島へ

先日、友人の手引きで輪島に行き、塗り師の方の工房を訪問する機会がありました。歴史を感じる古い建物だったのですが、そこで目にしたのは、生活に密接に取り込まれた漆塗りの技術でした。食器や家具はもちろん、柱・梁や建具、そして襖紙の絵も漆で描かれています。かつて見た、漆塗りの持つ豪華さとしての意味合いとは違って、素材の種類が限られていた時代に物を丈夫に保ち、大事に

使う為の身近な材料としての漆塗りでした。輪島塗の器の丈夫さについても色々とお聞きしていると、その途中で変色したあるお碗を見せて頂きました。



とまつりしゅんいちろう

都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



おばあちゃんの輪島塗

そのお椀は古びていて、おそらく当時は朱色であったお椀の内側は茶色く変色しています。しかし、外側の黒い部分はそれでも鈍い艶を保っていて、まだまだ使えそうです。聞けば、あるおばあさんが何10年の生涯に渡って使い続けたお椀とのこと。古びているけど丁寧に使われ、質素ではあっても生活に根ざしたうつわ本来の有り様を教えてください。そして今時のお椀に比べて小さく感じるその形が持ち主の姿や、やさしい人柄を私に伝えてくれるようでした。

お椀の漆黒が写し出す使い手の日々の憧れを感じ、ささやかながら自分用に塗り箸を頂いて、工房を後にしました。

姪のお椀

翌朝、輪島を後にする前に妹から連絡が来ました。「1歳の姪へのお土産に輪島塗をよろしく」という屈託のないものですが、気楽に言うなよと言いたくもなります。しかし前日のお椀の話思い出して、大人のエゴは承知で、敢えてしっかりと溜め塗のお椀を選びました。

よく磨かれた漆のお椀を手に、大人なら気を使いますが、そこは1歳児、無邪気にわけもわからず、がしゃがしゃと触って喜んでいます。そうして日々触れていくことで、そのお椀は彼女の時間を写し出していくでしょう。

（P8~9 写真：都祭俊一郎）



あなたの街のやどかりさん

サポートステーションやどかり

地域のサポートステーションを目指して

長期にわたる病院生活から地域生活へ

精神科病院の中で10年、20年、30年という生活を送らざるを得ない人たちがいることを皆さんご存知でしょうか。わが国の精神科病院では、病状が良くなりながらも退院することができない「社会的入院」を余儀なくされている人たちが72,000人いると言われています。こうした人たちの多くは、地域で支える仕組みがあれば、退院して地域生活を送ることができる状況にあります。やどかりの里は、社会的入院をなくすことを目指して1970（昭和45）年に活動を開始しました。そして、ここサポステは、長期にわたる病院生活から地域生活へ移行していくための準備をする場所です。

たくさんの人がつながる場として

地域生活を送る中で、障害のある人たちの大きな支えとなるのは「仲間とのつながり」です。サポステでは、料理にパソコン、軽作業など、さまざまな活動プログラムを行っています。自宅から通ってくることで、生活リズムを整えたり、たくさんの人と交流する機会になっています。保健師による健康教室では、いつも「きょうよう」と「きょういく」が大切だと話しています。「今日用があること」「今日行くところがあること」が人を元気にするのだそうです。そして、サポステに行けば、仲間がいるという安心感があります。顔なじみの関係、行きつけの場所といった人とのつながりがあることは、誰にとっても地域生活に欠かせない大切なことではないでしょうか。

新たな出会いは人も地域も元気にする

サポステは、今年3月に建物の一部を改装し、外装も23年ぶりに桜色に変わりました。設計を手がけた都祭設計士さんが、見沼区中川周辺の住宅の色合

第8回

サポートステーションやどかり（通称：サポステ）は、さいたま市見沼区にある障害のある人たちの地域生活を支える活動拠点の1つです。地域の方々のご理解とご協力をいただきながら、1990（平成2）年に施設を建設して以来、20年以上にわたって活動を続けています。

いなどを見ながら、地域に馴染むようにと工事を進めてくださいました。

早速新しくなった外装に似合うようにと、ボランティアによる園芸活動が開始。春から夏にかけて色とりどりの花と緑のカーテンができました。他にもギター教室やランチづくりなど、新しくボランティアとして活動に参加して下さる方々が増えました。

地域のサポートステーションとして

地域の恒例行事として定着した「やどかりの里大バザー」。毎年10月に地域の広場をお借りして開催しています。今年もたくさんの方々にご来場いただき、品物を提供していただきました。当日は多くの地域の方々にご来場いただき、ボランティアの人たちの協力のもと、盛大に開催することができました。また、3.11 東日本大震災を受けて、サポステが地域の人たちにとっての支援拠点にもなれるよう、防災設備を徐々に整えているところです。地域のサポートステーションになっていくことも、これからますます必要な役割になってくると思っています。

サポステ周辺には、新しい家が立ち並ぶようになりました。そうした中で、障害のある人たちの支援を行う拠点としてだけでなく、地域の人たちとつながりを創り合っていく拠点にもなっていきたいと思っています。（記 大澤 美紀）

昨年（2013年）「やどかりの里コーラス隊」を結成。1階ホールで練習を行っています。その他、ギターコンサートや映画上映会など、多彩な企画を予定しております。ぜひ足を運んでみてください。

お問い合わせ サポートステーションやどかり
〒337-0043 さいたま市見沼区中川562
TEL 048 (687) 2834



サポステ外観

インタビュー

つながる

1人1人が主人公になれる 人と人がつながる歌の力

関根 則子さん 黒木 聡子さん



左から関根先生、黒木先生

サポートステーションやどかりでは、多彩なプログラムを行っています。中でも「コーラスサークル」は長く続けられていて、昨年にはサークルのメンバーを中心に「やどかりの里コーラス隊」も結成。現在講師を務めておられる黒木先生、関根先生のお2人にお話を伺いました。

やどかりの里との出会い

「やどかりの里に出会ったのは、前任の講師の方からの紹介でした。私は合唱の経験がなく、コーラスの講師をお願いされた最初の頃は不安な面もありました。でもコーラスに取り組む参加者の姿勢を見て、是非やってみたいと思ったのです。それからあっという間に6年が過ぎました」と黒木先生。ピアノを担当している関根先生とやどかりの里は、10年のお付き合いになります。

「音楽大学時代は、クラシックを

中心に勉強していたので、コーラスサークルで演歌やポップスを弾くことに、最初は戸惑いもありました。けれどリクエストに応えるために、知らない曲は調べて、練習して臨むようになりました」

コーラス隊としての取り組み

昨年は「やどかりの里コーラス隊」にとって、大忙しの1年でした。4月のアートフルゆめまつり、8月に大宮夏祭り前夜祭、10月にはやどかりの里大バザーに出演。そして、11月に行われた、チェコ少女合唱団イトロのコンサートでは、休日練習も行い、舞台での共演を果たしました。「コーラス隊の話が出た時には、不安や戸惑いでいっぱいでした。合唱らしくしなければと編曲したり、パートに分かれて練習したりと手探りの連続でした」と先生方。コーラス隊の活躍には、先生方のたくさん

の努力や工夫がありました。

やどかりの里へのメッセージ

コーラス活動の参加者の年齢層は幅広く、童謡・唱歌・演歌・歌謡曲・アニメソングとリクエストも幅広くです。知らなかった曲と出会うことも楽しみの1つだそうです。関根先生は「音楽の時間が癒しの場、元気になれる場であればいいなと思います。明日から頑張ろうと感ずることができそうな場をつくり、コーラスを通して輪が広がっていくといいな」と、歌が人と人とをつなぐ力になることを語ってくださいました。

黒木先生は「今ある活動だけでなく、さまざまな活動を創っていった欲しい。コーラスを通して感ずることは、皆さん多彩な力をもっているということです。その力を発揮しないのはもったいない。力を生かせるような場が増えていけばいいと思います」と、やどかりの里への熱い思いを語ってくださいました。

1人1人が主人公になれる

コーラス活動を通して「障害のある人たち1人1人の個性や魅力が見えてきた」と語る先生方。1人1人が主人公になれる可能性がたくさんあること、そして、歌が地域の人

たちともつながるきっかけになることを教えてくださいました。コーラス隊には、障害のある人やそのご家族が参加しています。先生方は、もっと地域の方にも参加してもらえたいという思いをもたれています。歌声喫茶やママたちのための音楽会など、地域の人たちが歌を通して集まれる機会やそのための場所づくりをしてみてもどうか、というご提案もいただきました。

住宅街の中にあるサポートステーションやどかりの周辺に、ちょっと立ち寄れる、ちょっと休める場所が欲しいという声もあり、コーラスサークルが地域の居場所づくりに発展していく可能性があるかもしれません。（記 横尾 大志）

*コーラスサークルの活動日

第1・3・5木曜日（祝祭日はお休み）

第1部 13:00～15:00（リクエスト曲）

第2部 15:00～16:00（コーラス隊）

*コーラス隊の活動予定

・2014年4月20日アートフルゆめまつり参加予定

・NHK復興支援ソング「花は咲く」ミュージックビデオに参加

お問い合わせ

サポートステーションやどかり

TEL 048 (687) 2834



あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！出張します！

<http://www.yadokarininosato.org/>

公益 社団法人 やどかりの里（さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館）

Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894

e-mail: print@yadokarininosato.org

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は
浅沼社会保険労務士事務所

社会保険労務士 浅沼 智

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15
電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168
E-mail: skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp

OA機器
事務機器
オフィス用品
ソフトウェア のことなら

主な取扱商品

印刷機・複合機・FAX・事務用品・幼稚園ソフト

地域に根付いて36年
教育産業株式会社
<http://www.kyouikusangyou.co.jp>

さいたま市見沼区南中野301-1 TEL: 048-685-0855
FAX: 048-685-0726

アートフルゆめまつり 2014

2014. 4. 20（日）大宮駅周辺にて開催！

音楽とアートあふれる1日を♪

やどかりの里からは「やどかりの里コーラス隊」の発表、作品展示、
物品販売に参加します。詳しくは <http://www.aymo.jp/> まで



～すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために～

社会福祉法人 鴻沼福祉社会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いもず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高純大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿第1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。（一部商品を除く）

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257

さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉社会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉社会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890（担当：オガワ）

鴻沼福祉社会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿第1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》 ●つばさ共同作業所（中央区） ●あびみ共同作業所（見沼区） ●そめや共同作業所（見沼区） ●きりしき共同作業所（中央区）
●さいたま障害者労働センター（葛川市）

《くらす》 ●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ
●なつめホーム（以上、中央区） ●のぞみホーム（見沼区）

《ささえあう》 ●中央区障害者生活支援センター東夢 ●鴻沼活動支援センター東夢（以上、中央区）

●見沼区障害者生活支援センター東人（見沼区）



作者紹介

写真家 野口勝宏さん

東日本大震災後「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と、フェイスブックで連載している。7月には「ここは花の島」(帯文/谷川俊太郎) IBC パブリッシングから作品集が出版された。
<http://noguchi.jp.com/> でも作品の閲覧可能。

表紙：椿、梅、千両

美しくしつらわれた草花に出会うたび、目には見えない心を感じます。健康や幸せを願い、花に想いを込めた心です。花を見る事はその心を感じる事なのかもしれません。

題字 宗野文さん (1975年生まれ)

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第8号

発行 2014年1月(冬号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

* 弁当配達パートさん募集！

やどかりの里が運営しているエンジュでは、高齢者向け宅配弁当サービスを行っています。昼食弁当を配達するパートさんを募集しています。(主に見沼区周辺を配達します)
曜日/火・水・金 時間/ 10:45～13:00
時給 830円

エンジュ (見沼区南中野 286-1)

TEL 048-686-7875 (担当 永瀬恵美子)

* 事務職 (パート) 募集

サポートステーションやどかりでは、現在約60名の障害のある人たちが利用しており、週3日程度、障害のある人たちの生活を支えるお仕事のサポート、ならびに事務業務のお手伝いをしていただけの方を募集しております。一緒にお仕事していただける方をお待ちしております。詳しい内容は直接ご連絡ください。
サポートステーションやどかり (見沼区中川 562)

TEL 048-687-2834 (担当 大澤 美紀)